

総合技術研究会 2019 九州大学 参加報告書

1. 目的

「総合技術研究会」は全国の大学・高等専門学校及び大学共同利用機関に所属する教室系技術職員が参加する全国規模の技術研究会であり、職務遂行上有益な知識を取得すること、意識の啓発と資質の向上を図ること、また技術職員の交流等を通じて専門的技術の共有と探求を目的として参加した。

2. 開催期間

平成 31 年 3 月 6 日（水）～ 3 月 8 日（金）

3. 開催プログラム

3 月 8 日	技術交流会・見学会
3 月 9 日	安全衛生技術講演会 特別講演 「新元素の探索」 森田 浩介 理学研究院教授 次期技術研究会開催案内 口頭発表 1
3 月 10 日	ポスター発表 口頭発表 2

3. 参加者

ものづくり系班 中川秀則（口頭発表）
物理・化学系班 杉本風子（聴講）

4. 発表概要

題目「レーザー加工による PMMA・MDF 材の多孔スリットに関する研究」

科学研究費補助金「奨励研究」（課題番号 18H00248）

PMMA（アクリル）に代表される有機材料の変形には熱源を用いての曲げ加工という手間がかかる。また熱源を用いた塑性変形であり、弾性的な性質は金属に比べて劣る。レーザー切断の際に曲げの必要な部分に多くのスリットを用いることで疑似的な弾性の働きを有することが可能なことは知られている。そこで今回はスリット形状を種々変更し、3 点曲げ試験結果からその性質を評価した。

発表 15 分、質疑 5 分

5. 所感

九州大学ということで西に寄った為か2年前の東大より100人程度参加者は少なかった。自分の発表に関しては、概ね好評だったように感じた。また、試料をお土産として希望者の方々に配布したが、みなさん良いリアクションをしていただいた。

他の方の発表は、業務改善やちょっとした工夫なものが多かったように感じた。口頭、ポスターともに発表に対するハードルが低くなったような気がする。これは技術職員の職務が実験実習補助にあたる時間が多いこと、全国的に定員削減などの影響で多忙となったことなどがあるとは感じるが、逆に多くの技術職員が聴講ではなく参加してみようと思えるのではないかと感じた。ぜひ多くの方が現地で発表を見聞きし、職務遂行上有益な知識を取得したり、意識の啓発と資質の向上を図ると良いのではないと思う。

中川 秀則

幅広い専門分野での発表があり、大学ならではのテーマも見受けられて興味を引かれるものがあった。しかし、12の分野の発表が同時に行われていたので、興味のある発表の時間が重複してひとつの発表しか聞けないのは残念であった。一方で、最近取り組んでいたガラス細工に関する発表が2件あり、それぞれの工夫など参考になるものがあったので参加できてよかったと思う。また、他高専の方々だけではなく、大学に所属している技術職員の方々とも交流や情報交換ができ、いい刺激を受けたと感じている。

杉本 風子

